



アジアの環境問題を解決する「未来の環境リーダー達」が日本の公害問題の原点を学ぶ MINAMATA UNIT 2013 5大学合同演習を水俣市で開催！

概要

九州大学東アジア環境研究機構が推進する文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進 戦略的環境リーダー育成拠点形成」事業による「東アジア環境ストラテジスト育成プログラム」（平成22年度～平成26年度）では、大学院共通科目「環境・公害原論演習」を、来る11月23日（土）から11月27日（木）まで、同環境リーダー育成プログラム採択5大学（九州大学、熊本大学、北九州市立大学、筑波大学、岐阜大学）が合同で熊本県水俣市にて開講します。

今年で3回目となる「MINAMATA UNIT」には、5大学から、日本人学生を含むアジア・アフリカ16か国35名の多分野専門領域の大学院生（修士課程、博士課程）が参加します。

背景

「環境ストラテジスト」とは、アジアにおいて同時複合的に発生している環境問題に対処できるリーダー人材と定義しています。環境問題を俯瞰的かつ体系的に捉えることができ、それぞれの専門知識と環境全般の知識に基づき、戦略的に解決策を提示できるT型環境リーダーとして、環境分野において第一線で活躍できる人材を意味しています。アジアにおける環境・公害問題の予防、減災、解決には、日本の高度経済成長期（1950年代から60年代）の負の側面である環境汚染と公害問題を学ぶことが肝要です。環境ストラテジストには、日本の公害の原点を学び、過去から現在に至る社会的影響を把握し、課題を自ら探す力、専門知識を基に課題の「解決策」を見いだせる力、これら公害病を起こさないための「予防」のためのリスクマネジメント、技術者倫理といった知識と倫理感、技術力、多様な分野におけるリーダーとしての判断力が求められます。

九州大学東アジア環境研究機構では、文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進 戦略的環境リーダー育成拠点形成」事業に採択された「東アジア環境ストラテジスト育成プログラム」（平成22年度～平成26年度）の取組の一環として、毎年、同環境リーダー育成プログラム採択5大学（九州大学、熊本大学、北九州市立大学、筑波大学、岐阜大学）が合同で、熊本県水俣市にて「MINAMATA UNIT」を開講しています。

「MINAMATA UNIT」では、「公害病の原点」といわれる水俣病を取り上げ、講義による基本知識の習得および熊本、水俣市にて多様なステークホルダーへのインタビューを実施し、多分野混成チームの協働グループワークによる演習を行います。

内容

「なぜ水俣病問題はいまだに終わっていないのか」という過去から現在につながる問題をコアプロブレムと設定し、さまざまなステークホルダーの立場を明確にした上で、問題の本質を追求し、アジアで二度と同じ過ちを繰り返さないための予防の重要性を学びます。

水俣市では、水俣病資料館訪問、水俣病患者や患者支援会、医師、自治体、科学者・研究者といったさまざまな関係者へのインタビューを実施し、認定患者問題については、患者会の支援のもと天草の倉岳の山頂より不知火海をのぞみ考えます。現在につながる「環境首都みなまた」では、環境モデル都市として取り組んできた環境配慮型リサイクルや、環境学習都市づくりの現場を訪問し、現在の課題について学びます。

「MINAMATA UNIT 2013」

- ・日 時：平成25年11月23日（土）～27日（水）
- ・場 所：熊本県水俣市
- ・主 管：九州大学（東アジア環境研究機構）
合同実施大学：熊本大学、北九州市立大学、筑波大学、岐阜大学

<主なプログラム>

[PART1: 水俣病は未だに終わっていないのはなぜか]

[PART2: 環境首都みなまたを考える]

【11月23日(土)】

10:30-12:00 水俣病資料館(見学・語り部)

15:30-17:00 ほっとはうす訪問(水俣市浜町1-9-17):胎児性水俣病患者とのふれあい

【11月24日(日)】

8:00-15:00 倉岳ツアー:不知火患者会協力 *山海館前から船貸切手配

16:00-18:00 講義「臨床医からみる水俣病」(ホテル海と夕やけ)水俣協立病院高岡、川上医師

【11月25日(月)】

9:00-10:00 エコパーク慰霊碑訪問

10:00-12:00 国立水俣病総合研究所訪問

13:00-15:30 ウォーキングツアー(相思社→歴史考証館→坪田→百間排水溝)

16:00-17:30 講義「自治体からみる水俣病」(ホテル海と夕やけ)熊本県庁

【11月26日(火)】

14:00-16:30 産業団地訪問(田中商店、Act-Bリサイクル、ごみ分別ほか)

18:00-20:00 講義 水俣市長 or 総務課長(場所未定)

【11月27日(水)】

9:00-10:00 インタビュー:市民の目線で今の水俣を考える&地域資源を活かしたものづくり
(もやい直しセンター)

14:00-16:30 発表(ネローラ花香房、あばこんね)

■効果・今後の展開

「公害病の原点」といわれる水俣病を取り上げ、講義による基本知識の習得および熊本、水俣市にて多様なステークホルダーへのインタビューを実施し、多分野混成チームの協働グループワークによる演習を行うことにより、日本の公害の原点を学び、過去から現在に至る社会的影響を把握し、課題を自ら探す力、専門知識を基に課題の「解決策」を見いだせる力、これら公害病を起さないための「予防」のためのリスクマネジメント、技術者倫理といった知識と倫理感、技術力、多様な分野におけるリーダーとしての判断力の醸成が期待できます。また、既に Facebook などの展開により、日本で学んだ環境リーダーのアジアにおけるネットワークの形成も始まっており、今後の更なる活性化が期待できます。

演習後の事後学習の最終発表、最終レポートやアンケート結果からも、環境技術イノベーションの背景にある環境・公害問題に対する認識が非常に深まったとともに、留学生を含む他大学生との約1週間にわたる全ての英語での共同作業は、このような機会が少ない学生の国際的な視野を広げるのに大きな成果をもたらしたという評価が述べられています。この演習の準備には5大学の教員が約半年をかけて学習カリキュラムの開発を展開しており、毎年教育効果が増していると自負しています。

本演習の事前講義の一部では、参加する複数大学をテレビ会議システムで結んだ遠隔講義も実施しています。非常勤講師などの外部あるいは他大学の教員の講義など、対面講義が設定できない講義を自教室で比較的容易に聴講でき、学生にも評価されています。

本プログラムで育成された人材が既にアジアに戻り、自国の政府官職や大学、民間企業において環境分野の最前線に立ち、環境問題の解決、未然予防に尽力していますが、九州大学は更にこの育成プログラムの持続に努めており、日本発のアジア環境リーダー、環境ストラテジストの誕生が期待できます。

(参考)

「MINAMATA UNIT 2012」の様相（九州大学、東京大学、熊本大学、北九州市立大学、筑波大学）



写真1：開会式



写真2：語り部



写真3：御所浦鳥峠にて患者より認定地域の説明をうける様子



写真4：中間発表の様相



写真5：グループワークの様相



写真6：患者会のインタビューの様相



写真7：最終日集合写真

【お問い合わせ】

東アジア環境研究機構 特任准教授 篠崎真美

電話：092-802-2566

FAX：092-802-2564

Mail：shinozaki@rieae.kyushu-u.ac.jp